

平成 27 年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1. 研究開発課題名

cool Japan cool Bansyuri —播州織再発見と西脇産ブランド発信—

2. 研究の目的

- 1 播州織産地としての、伝統ある織物や昔ながらの職人技を再発見し、世界に誇れる技術や日本の文化、織物の文化を理解するとともに、企業で使用されている織組織制作コンピュータシステムを導入し、播州織生産の最先端技術を身につけた将来の播州織スペシャリストを育成する。
- 2 消費者のニーズを考え、播州織製品のプランニング・デザイン・リサーチ・マーケティング・プロデュースをする力を身につけた地域産業を担う将来のスペシャリストを育成することを通して、地域産業を活かした新たな「家庭に関する専門学科」の在り方を研究する。
- 3 播州織のすばらしさとともに、NSHブランド（西脇高校生活情報科ブランド）として、高校生の感性を生かして、地域で学んだ播州織技術と日本文化や西脇の文化を秘めたオリジナルブランドを世界に発信する。
- 4 播州織でつながる町づくりのすばらしさを再認識し、「播州織で織りなす町」を西脇高校から情報発信し、コミュニティづくりを行う。

3. 実施期間

契約日から平成 28 年 3 月 15 日まで

4. 当該年度における実施計画

- 1 播州織産地を理解した将来の播州織スペシャリストを育成する。
 - ① インターンシップにより織技術や加工について理解し、素材開発から商品開発までプロデュースする。
 - ② 産元商社や織布職人とコラボし、Made in Japan を意識した「新・播州織」を提案する。
 - ③ 産地のテキスタイルデザインやアパレル業界で活躍している方や卒業生による指導と評価を実施し専門性を高める。
 - ④ グローバルな視点から播州織をとらえ、日本人としてのアイデンティティと感性を意識して、作品や商品づくりを行う。また、海外研修を通して Made in Japan や cool Japan を追究し、海外へ情報発信できる能力を養う。

- 2 マーケティングを考えた商品開発を行う。
 - ① 学校設定科目「日本の伝統と地域産業」を設定し、地域の伝統産業に関する専門的な学習への動機付けや、環境分析から社会や生活の変化と生活産業について理解する。
 - ② 学校設定科目「生活産業とマーケティング」では、地域活性化をテーマに、一人1提案の企画をデザインし、社会の変化とマーケティングについて分析し、行動計画に基づいた実践を行う。

- 3 NSHブランド（西脇高校生活情報科ブランド）を発信する。
 - ① 播州織の良さと高校生の感性を活かし、播州織の新しい素材やデザイン、製品の開発を行う。
 - ② 播州織を通して育まれた感性や日本文化の伝統や技術を備え、NSHブランド（西脇高校生活情報科ブランド）をプロデュースする。
 - ③ 播州織のすばらしさとオリジナルデザインを提案し、SNSを活用した情報発信を研究する。

- 4 播州織で織りなす町づくりを行う。
 - ① 地域活性化をテーマに、大学生とワークショップを行い、施設や団体と行っている交流を、西脇高校から情報発信し、町のコミュニティづくりの実践活動に発展させる。
 - ② 地域の活性化のため、西脇市や商工会議所と連携して、播州織でつながる町づくりを高校生ならではの感性で提案し、実践する。

5. 実施体制

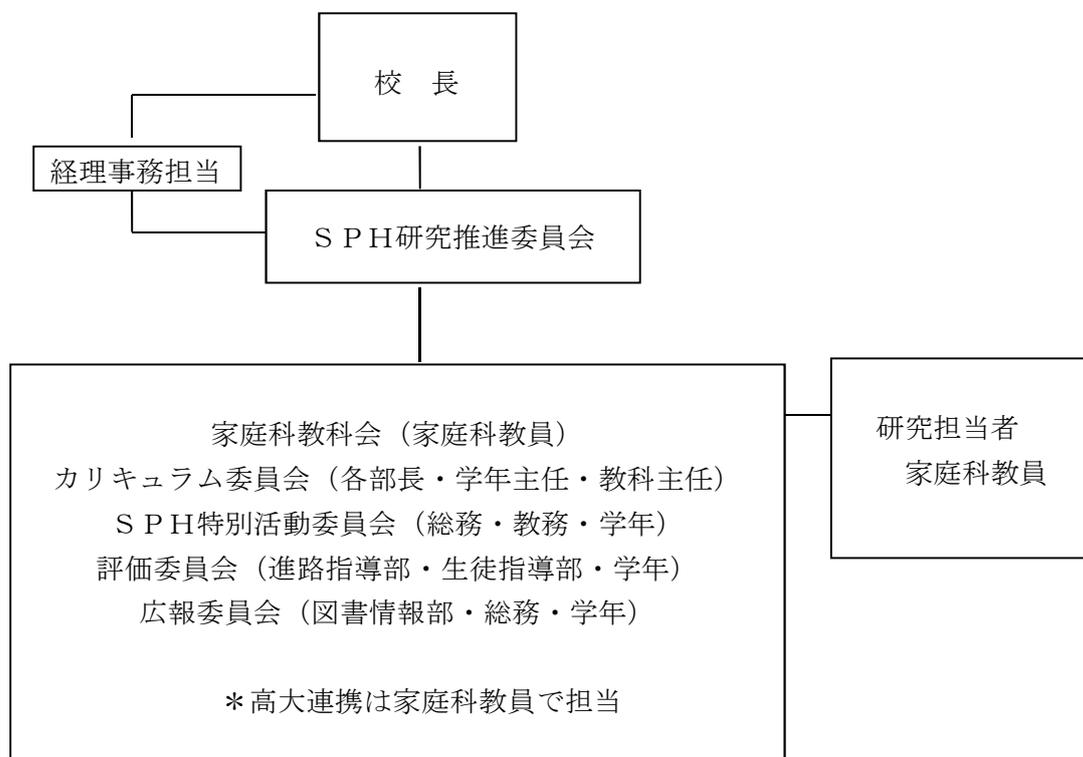
(1) 研究担当者

氏名	職名	役割分担・担当教科
松本 安博	主幹教諭	カリキュラムの調整・社会
藤原 容子	主幹教諭	全体企画・家庭
東郷 憲昭	教諭	地域産業連携
常深まゆみ	教諭	コンピュータ管理・家庭
宮田 麻美	教諭	地域連携・家庭
富永真由美	教諭	商品開発・家庭
市川 和代	教諭	商品開発及び記録・家庭
安東 知子	臨時講師	地域連携・家庭
石古 敬子	主任実習助手	経理文書担当

(2) 研究推進委員会

氏名	所属・職名	役割・専門分野等
井上 真理	神戸大学 人間学科発達研究科	学識経験者
古谷 稔	兵庫県繊維工業技術支援センター長	関係行政機関
細川喜美博	西脇市企画政策課 課長	関係行政機関
戸田 雅人	西脇市商工観光課 課長	関係行政機関
斎藤太紀雄	地場産業開発機構・理事長	関係行政機関
ひろいのぶこ	京都市立芸術大学・教授	学識経験者
岸上 龍平	神戸親和女子大学・教授	地域連携・マーケティング
山田 博之	上田安子服飾専門学校・講師	デザイン
田仲留美子	神戸ファッション専門学校・講師	デザイン
清水 道子	県教育委員会高校教育課・主任指導主事	関係行政機関

(3) 校内における体制図



6. 研究内容別実施時期

※ 4. に記載した内容別に実施時期を記載

研究内容	実施時期											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 播州織産地を理解した将来の播州織スペシャリスト育成	工場見学	現場見学 講義		テキスタイル提案	インターシッ		織物	製品化				
2 マーケティングと商品開発	アンケート	TEX-SIM	ブランド企画製作	デパート販売		新・播州織の提案	商品開発				実践発表	記録まとめ
3 NSHブランド発信	イメージマップ作成	ファッションショー情報発信	CAD講習		ファッションショー		ファッションショー	ファッションショー				
4 「播州織で織りなす町づくり」発信	講義	演習	大学と連携	町づくり企画発表	実践					実践まとめ	実践発表	

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目

8. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

() 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有 無

※有の場合、別紙3に詳細を記載のこと。

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

別紙2に記載